

社会資本総合整備計画(地域住宅支援)

にぎわいの拠点<sup>きよてん</sup>づくりと伝統的<sup>でんとうてきたてもの</sup>建物を活かしたまちづくり

事後評価シート

福島県<sup>ふくしまけん</sup> 会津坂下町<sup>あいづばんげまち</sup>

平成29年12月

社会資本総合整備計画（地域住宅支援） 事後評価書

平成24年3月31日

計画の名称	にぎわいの拠点づくりと伝統的建物を活かしたまちづくり		
計画の期間	平成24年度 ～ 平成28年度（5年間）	交付対象	福島県河沼郡会津坂下町
計画の目標	○にぎわいの拠点間をつなぎ回遊動線を創出するとともに、地域の特色を活かした街なみを整備し、地区内及び地区外住民との交流を支援し地域を活性化する。		

計画の成果目標（定量的指標）	○にぎわい拠点間の回遊性の向上／歩行者通行量の増加 日当り通行量を20人を目標とする。 ○地区外交流人口の増加／立木観音の観光入込数を181千人（平成22年度）を200千人（平成28年度）に引き上げる。 ○地区の居住環境の向上／修景助成棟数を五カ年で10棟を増加させる。		
----------------	---	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考				
	当初現況値 (H24当初)	中間目標値 (H26末)	最終目標値 (H28末)					
○立木観音から旧山一廻店跡地の間の計画通路の日当り歩行者通行量を調査する。 (目標値＝調査毎の通行量の累計/調査回数) ※整備後、数回調査を実施し平均値を算出する。	0人	/	20人	※中間目標は任意				
○立木観音周辺を訪れる来訪者数をもとに算出する。 (目標値＝平成28年度の立木観音観光入込客数)	181千人		200千人					
○修景助成事業の実施状況をもとに算出する。 (目標値＝現況値(修景済みの件数)＋計画する修景整備の件数)	78棟		88棟					
全体事業費	合計 (A+B+C)	151百万円	A	151百万円	B	C	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	事後評価（中間評価）の実施時期
事後評価（中間評価）の実施体制	平成29年度
事業担当課で、数値目標の達成状況や効果の発現状況を検証し、その結果に至った原因を分析した。その今後のまちづくりの方針を検討し、その評価に客観的な立場で会津坂下町行政評価委員会に諮り、意見を求めた。	公表の方法
	町ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業費

A 基幹事業														
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容・規模等	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
								H24	H25	H26	H27	H28		
1-A-1	住宅	一般	会津坂下町	直接/間接	町/民間	街なみ環境整備事業(塔寺・気多宮地区)	生活環境施設 広場整備 水路整備 サイン整備 修景助成						151	
合計											151			

B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別等	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
										H24	H25	H26	H27	H28		
合計											0					

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
----	----------------------	----

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別等	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
										H24	H25	H26	H27	H28		
合計											0					

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
----	----------------------	----

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>当地区にある二つの国指定重文を広場の整備、誘導するサイン等を整備し周辺を散策する人が増えている。また、広場整備による駐車施設、休憩施設の整備により、利便性が向上し入込客数も震災前には届かないものの、若干の伸びを見せ回復してきている。</li> <li>街づくり協定に基づき建築物の改修、色彩の変更を行ったことにより徐々にではあるが、街並みに一体感が出てきている。また、解体予定であった土蔵を地区のコミュニティ施設に改修し地区の歴史的景観の保全とともに修景に対する住民への意識の啓蒙ともなった。</li> </ul>			
II 定量的指標の達成状況	指数① にぎわい拠点間 の回遊性の向上	最終目標値	20人	目標値と実績値 に差が出た要因	広場の整備により駐車箇所から旧五十嵐家住宅への見通しも開け、興味をもち回遊する観光客も見受けられるようになり、目標とする歩行者数を達成することができた。
		最終実績値	23人		
	指数② 地区外交流人口 の増加	最終目標値	200千人	目標値と実績値 に差が出た要因	平成23年3月発生の東日本大震災及び福島第一原発の事故により、平成22年には181千人あった入込客数が平成23年には66千人（対前年比63.5%減）まで落ち込んだ。平成24、25、26の各年は各々80千人前後と横這いの状態が続き回復の兆しが見られなかった。しかし、平成26、27年の2箇所の広場の開設以後、徐々に付近を散策する光景も見られ、平成27年は86千人、平成28年は95千人まで回復し一定の効果がみられたが、震災前に戻るには、まだ時間を要すると思われる。
		最終実績値	95千人		
	指数③ 地区の居住環境 の向上	最終目標値	88棟	目標値と実績値 に差が出た要因	目標値を大きく上回る実績値で目標を達成出来た。しかし、改修の内容は地区の景観により影響のある外壁・外構等の改修よりも屋根の塗装塗替えが多かったが、地区住民に対する意識づけができ一定の効果があつた。（実施棟数20件のうち屋根塗装塗替え14件、外壁・外構等6件）
		最終実績値	98棟		
III 定量的指数以外の交付対象事業の効果の発現状況  (必要に応じて記述)		<p>気多宮地区の景観形成上、重要な建築物である土蔵を残し、歴史的街並みの保全を図る目的であったが、老朽化した旧地区集会所の不便が解消され、利用者が年間103人(対前年度40.2%)増加し、気多宮地区の居住環境の向上につながった。</p>			
3. 特記事項（今後の方針等）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>塔寺地区の文化財を中心とした観光客の誘致、それに伴う周辺への経済効果の波及を図る。しかしながら訪れる観光客のニーズに応えるには売店などの商業施設等がまだまだ不足している。今後は町観光部局においては、当地の観光地としての対外的なPR等に力を入れ、観光客の増加による民間施設の出店を促し、建設部局は周辺の建物の修景整備を助成し観光地としての魅力を高めてゆく。</li> <li>気多宮地区の代表的な土蔵を活用し、地区のコミュニティ施設に改修したことにより、当地区の歴史的街並みを形成する伝統的建物の代表と言える土蔵の具体的な改修事例が示され、地区の目指す景観の方向性が認識できたと考える。今後は街づくり協定に則り継続的に景観の保全に努めていく。</li> </ul>					



計画の名称	にぎわいの拠点づくりと伝統的建物を活かしたまちづくり		
計画の期間	平成24年度～平成28年度(5箇年)	交付対象	福島県河沼郡会津坂下町(塔寺・気多宮地区)



凡 例			
- - - - -		事業区域	
	広場・緑地整備		案内板等
	土蔵改修		ゴミ集積所美装化(4箇所)
	水路整備		修景助成( 20件)